

第3回 EST普及推進フォーラム実施概要

EST(Environmentally Sustainable Transport:環境的に持続可能な交通)の普及促進を図るため、ESTの取組みについて講演やパネルディスカッション等で検討する「第3回 EST普及推進フォーラム」を開催した。平成21年度に創設した「第1回 EST交通環境大賞※」の表彰を本フォーラムの中で行った。基調講演で持続可能な交通とまちづくりの全体像を把握し、受賞講演で優良事例を学んだ後、パネルディスカッションにてESTの必要性を再考し、普及推進方策について検討した。

当日はあらゆる団体から111名が参加した。当日のパネルディスカッションの様子は、荒川CATVのニュースで取り上げられたほか、平成22年2月23日の新潟日報や平成22年3月に交通新聞で開催結果が記事として掲載される予定。

※地域の交通環境対策に関する取組み事例を発掘し、優れた取組みの功績や努力を表彰するとともに、その取組みを広く紹介し、普及を図るため、本フォーラムの主催者が平成21年度に創設した表彰制度。

日 時:平成22年2月17日(水) 13:30~17:00

会 場:KKRホテル東京「瑞宝」

主 催:EST普及推進委員会、交通エコロジー・モビリティ財団

後 援:国土交通省、環境省、警察庁、社団法人日本自動車工業会、
社団法人日本民営鉄道協会、社団法人日本バス協会



「第3回 EST普及推進フォーラム」開催ご案内
～ 低炭素交通システムの実現に向けて ～



EST (Environmentally Sustainable Transport: 環境的に持続可能な交通) の普及促進を図るため、ESTの取組みについて講演やパネルディスカッション等で検討する「第3回 EST普及推進フォーラム」を開催します。

また、平成21年度に創設した「第1回 EST交通環境大賞※」の表彰を本フォーラムの中で行います。

基調講演で持続可能な交通とまちづくりの全体像を把握し、受賞講演で優良事例を学んだ後、パネルディスカッションにてESTの必要性を再考し、普及推進方策について検討します。

優れたEST・交通環境対策の事例について学び、最新情報を入手する絶好の機会となりますので、皆様の参加をお待ち申し上げます。

※ 地域の交通環境対策に関する取組み事例を発掘し、優れた取組みの功績や努力を表彰するとともに、その取組みを広く紹介し、普及を図るため、本フォーラムの主催者が平成21年度に創設した表彰制度。

日 時 : 平成22年2月17日(水) 13:30~17:00
(13:00 受付開始)

会 場 : KKRホテル東京10階「瑞宝」
〒100-0004 東京都千代田区大手町1-4-1

主 催 : EST普及推進委員会、交通エコロジー・モビリティ財団

後 援 : 国土交通省、環境省、警察庁、社団法人日本自動車工業会、
社団法人日本民営鉄道協会、社団法人日本バス協会



環境的に持続可能な交通

Environmentally Sustainable Transport



←開催風景

広報チラシ→

第1部 開会挨拶・表彰式

国土交通省、環境省、交通エコロジー・モビリティ財団からの開会挨拶のあと、第1回 EST交通環境大賞の表彰式を行った。表彰式では、EST普及推進委員会 太田委員長から各賞授与 及び 審査講評が行われた。

○開会挨拶

関口 幸一 国土交通省総合政策局 次長
内藤 克彦 環境省水・大気環境局 自動車環境対策課長
与田 俊和 交通エコロジー・モビリティ財団 理事長

○表彰式

太田 勝敏 東洋大学国際地域学部 教授
大賞 神戸市、優秀賞 荒川区、
奨励賞 特定非営利活動法人ひらかた環境ネットワーク会議、
特別大賞 富山市



第1部 基調講演 第2部 受賞講演

表彰式に続き、基調講演が行われ、休憩の後、第1回 EST交通環境大賞の受賞団体から受賞講演が行われた。

○基調講演

「持続可能な交通とまちづくり」

原田 昇 東京大学大学院工学系研究科 教授

○受賞講演

「神戸市における継続的なESTの取り組み」

菅野 孝 神戸市交通局営業推進課 主幹

「『環境交通のまち・あらかわ』の実現に向けて」

松土 民雄 荒川区環境清掃部 環境課長



第2部 パネルディスカッション「今なぜ、『環境的に持続可能な交通』への取り組みが必要か」

コーディネーター: 太田 勝敏 東洋大学国際地域学部 教授

パネリスト: 加藤 博和 名古屋大学大学院環境学研究科 准教授

末岡 妙子 特定非営利活動法人ひらかた環境ネットワーク会議 理事

高森 長仁 富山市都市整備部交通政策課 課長

大塚 洋 国土交通省総合政策局 環境政策課長

内藤 克彦 環境省水・大気環境局 自動車環境対策課長

【概要】

環境的に持続可能な交通(EST)への取り組みは欧州で始まり、京都議定書発効後は日本国内でも推進されるようになり、さらにアジアへの普及もはじまっている。昨年のCOP15においては京都議定書後の温暖化防止に向けた枠組みは合意できなかったものの、低炭素社会実現の必要性に変わりはなく、ESTや低炭素交通システムの実現に向けた地域の取り組みは重要である。本フォーラムで表彰した神戸市、東京都荒川区、特定非営利活動法人ひらかたネットワーク会議、そして富山市の取り組みは、国内でのESTの取り組みの中で代表的かつ有効な事例であり、二酸化炭素排出削減のみならず経済・社会的観点からも一定の成果をあげている。これらトップランナーの取り組みを参考として、ESTを国内に普及推進するため、このパネルディスカッションでは、まず、EST実現が必要な理由を確認した上で、ESTを普及推進するために必要な方策を検討した。

